

物語三重 龜山



〈創刊号〉



龜山商工会議所

“ヤマトタケルが眠る地 龜山”

ヤマトタケルは、奈良時代に編さんされた歴史書『古事記』『日本書紀』に登場する伝説上的人物です。景行天皇の皇子で、天皇に従わない者との戦いのため、天皇の命により、九州から関東にまで赴きました。

そうした生涯から、日本各地に多くの伝説を残しました。タケルが亡くなったとされるこの龜山の地には、多くの伝説とともに、今でもタケルが眠っています。龜山に残るヤマトタケル伝説をたどってみることにしましょう。

◆ヤマトタケルとヤマトヒメ

ヤマトヒメは景行天皇の姉で、タケルのおばにあたります。父垂仁天皇の命を受け、皇祖神をまつる適地を探して諸国をめぐり、最後に現在の伊勢神宮の地に定めたとされています。

この旅の途中滞在した「鈴鹿小山宮」が、市内若山町から野村町にかけての小丘陵「愛宕山」(かつては「押田山(オシダヤマ)」と呼ばれていた)とされています。この山のことを「カミヤマ」と呼び、これがいつしか「カメヤマ」になった。いくつかの説がある龜山の地名の由来のひとつです。

◆ヤマトタケルとオトタチバナヒメ

ヤマトヒメが滞在した「鈴鹿小山宮」は、後に忍山(オシヤマ)神社になったと伝えられています。忍山神社の祀官オシヤマノスクネの娘が、タケルの妃のひとりオトタチバナヒメです。オトタチバナヒメはタケルとともに東国へ赴きますが、三浦半島から房総半島へ渡る海路(走水の海)で荒れ狂う海を鎮めるため、自ら海中に身を投じタケルを助けました。

オトタチバナヒメの死を悼んだタケルは、東国を離れる際に「吾妻はや」と嘆き、このことから関東地方のことを「吾妻(あづま)」と呼ぶようになったといわれています。

ヤマトタケルと「三重」

東国からの帰路、伊吹山の荒ぶる神を倒すために山に入ったタケルは、その怒りに触れて病となり下山します。病身のまま故郷大和国へ向かう途中、次第に病が重くなり現在の四日市市采女付近で歩くこ



ともできなくなりました。タケルが「私の足が三重に折れ曲がってしまったように、随分疲れたものよ」と言ったことから、その地を「三重」と呼ぶようになりました。

これが三重の地名の由来です

ヤマトタケル終焉の地 「ノボノ」と白鳥伝説

病身のまま故郷を目指したタケルでしたが「ノボノ」で亡くなります。その終焉の地に作られたタケルの墓が「能褒野御墓」です。

“大和は國のまほろばたなづく青垣
山籠れる大和しうるわし”

これは、タケルが死の直前に故郷大和国を偲び謡ったとされる「国唄歌」です。

亡くなった後、タケルの魂は白鳥に姿を変え、故郷大和へと飛び去っていきました。能褒野御墓から西を眺めると、安楽川の静かな水の流れに鈴鹿の山並みが重なります。こうした風景の中を、白鳥となったタケルの魂は飛んでいったのでしょうか。



※ヤマトタケルノミコトは、『古事記』では「倭健命」、『日本書紀』では「日本武尊」と表記されています。

※「ノボノ」を飛び立った白鳥は、大和国「琴弾原」(コヒキハラ)、そして河内国「古市」(フルイチ)に降り立ちました。この2箇所に築かれた御陵が、「琴弾原御墓」(奈良県御所市)と「日本武尊白鳥陵」(大阪府羽曳野市)です。

龜山へよう来とくなしたなあ

この「三重龜山物語」では、龜山にお立ち寄りいただいた皆さん、龜山の「知る人ぞ知る」名所を含む2つの散策コースをご紹介します。「コースをじっくり散策していただく」「1~2箇所を選んで気軽に散策」旅の仕方はあなた次第です。

また、散策の途中で楽しんでいただける、新しくてお得な商品をご用意いたしました。あわせてお楽しみください。

今後も、秋号「彩」、冬号「暖」、春号「花」と引き続き刊行いたします。季節ごとの龜山の魅力をぜひご堪能くださいませ。

…ガンバって歩かん？

「アルカン(歩かん？)」は、龜山では「歩きませんか？」の意味です。

…ポタリングって知ってる？

“今、かなり流行っています！身体にもいいし、爽やかだし！”

…車(カー)でぐる～と？

“愛車でまわって目的地でゆっくりするのもいいかも！”

…龜山は「てっちゃん」の聖地？

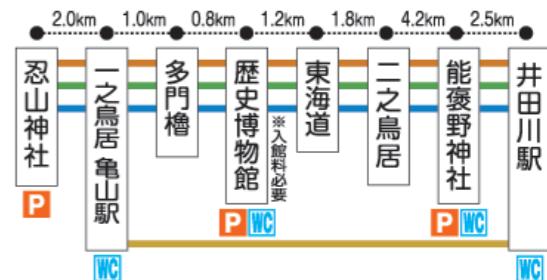
“見どころ満載！龜山は鉄道ファンには見逃せない！”

“古代のロマンでパワーアップ”コース

ヤマトタケルノミコトをご存知ですか？景行天皇の皇子で、日本古代の英雄のひとりです。日本全国を廻り戦いに明け暮れた生涯は、日本全国にさまざまな伝説を生みました。

このコースでは、龜山に残るヤマトタケル伝説の地を巡ります。いずれも古代のロマンが宿るパワースポットばかりです。

[総コース距離13.5km]

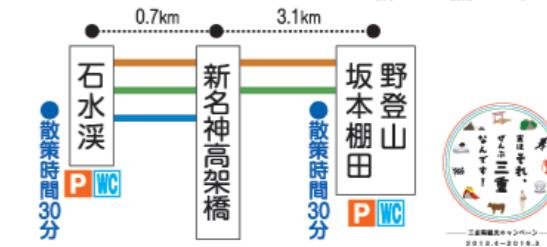


“龜山の「涼」を体感”コース

龜山の涼を体感するのに石水渓は欠かせません。

石水渓は、鈴鹿山脈仙ヶ岳に端を発する安楽川の上流部で、自然豊かな龜山を代表する景勝地です。渓谷に響く水音と清々しい風に、龜山の「涼」を満喫してください。

[総コース距離3.8km]



— 三重県観光キャンペーン —

2012.4 ~ 2018.3